

(報告) ユーザー理解活動の取組状況

2018年12月14日

公益財団法人自動車リサイクル促進センター

《目次》

1. 2018年度ユーザー理解活動の計画	・・・ P2
2. 情報の質を高める取組	・・・ P3
3. インターネットメディアでの露出を高める取組	・・・ P4
4. 全国環境イベントでの取組	・・・ P5
5. 小学生の学校教育と連動した取組	・・・ P7
6. クルマのリサイクル作品コンクールを開催	・・・ P9
7. ユーザー理解活動事業費の執行状況(第2Q)	・・・ P10

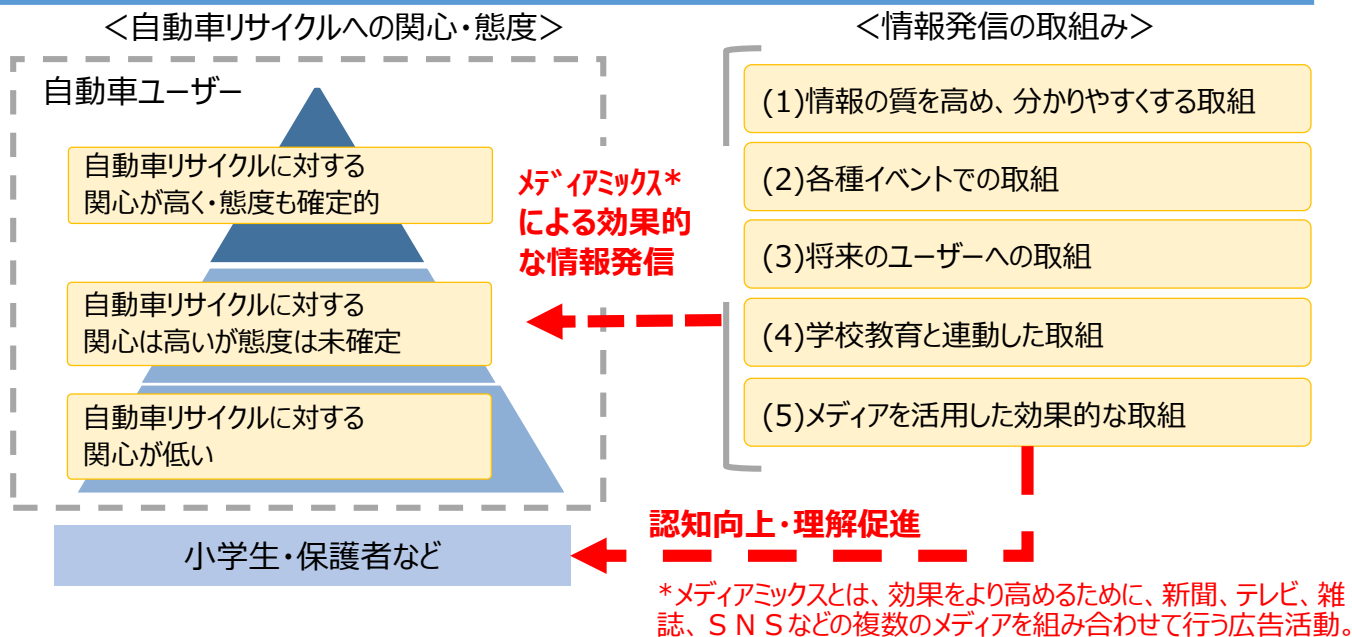


1. 2018年度ユーザー理解活動の計画

ユーザーを始めとした自動車リサイクルの関係者のニーズを把握しながら、新たな切り口により情報発信・共有の高度化を図ることとしている。

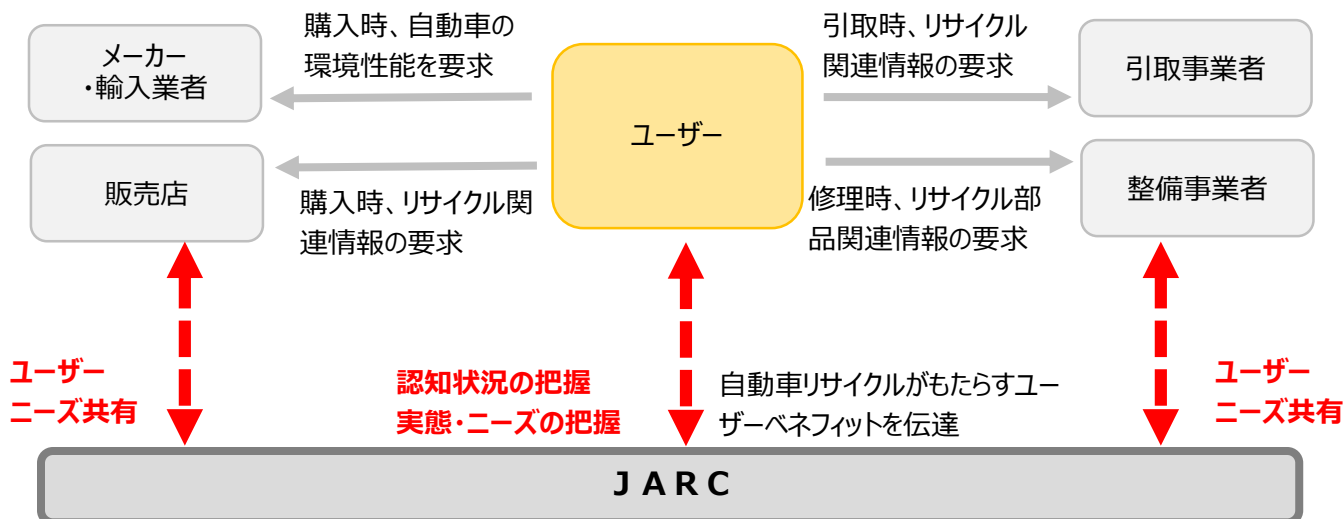
(1) 情報発信の取組

ユーザーにとって利便性が高く、コスト効率が良い手法を用いて、ユーザーに質の高い情報を提供する。そして、ユーザーとのコミュニケーション回数を増やし、効果的にメディアを活用しながら、“点”での取組を“面”への取組へと活動の幅を広げていく。



(2) 情報収集の取組

分かりやすい情報へと広報コンテンツの質を高め、ユーザーに対して効果的に情報を届けられるように、ユーザーの自動車リサイクルについての認知状況や自動車リサイクルの関係者のニーズを把握する。



2. 情報の質を高める取組

JARCウェブページにて、質を高めた情報をタイムリーに発信している。
また、ユーザー向け広報ツールをダウンロードできるように改善を行った。

The screenshot shows the JARC website with a green header. The main content area features a large article titled '平成30年北海道胆振東部地震により被害を受けた皆さまへ' (Dear everyone affected by the Great Hokkaido Earthquake of 2018). Below this, there are sections for 'お知らせ' (Notice) and '博士の日記' (Doctor's Diary). The 'お知らせ' section lists several news items, including a contest for elementary school students and a book release. The '博士の日記' section contains a series of posts dated from September 2018, detailing the earthquake's impact and JARC's response. A blue arrow points from the text 'クリック' (Click) to a link in the 'お知らせ' section. Another blue arrow points from the text 'クリック' to a link in the '博士の日記' section.

平成30年北海道胆振東部地震に係る情報を取りまとめ掲示

- ・被災車両に関するよくある質問
- ・各省庁等からの連絡事項

<広報ツールを掲示したウェブページ>

The screenshot shows a website with a grid of promotional materials. The materials include brochures, posters, and a book titled '自動車リサイクルデータBOOK'. A blue arrow points from the text 'クリック' (Click) to a link in the grid. A blue box at the bottom right of the grid contains the text '新たに製作した広報ツール等を掲示' (Display newly produced promotional materials, etc.).

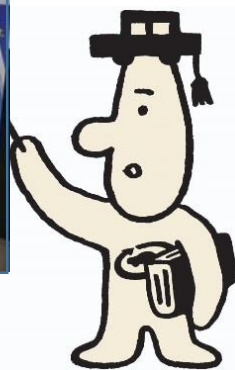
広報ツール（一例）

The brochure features a car made of various recycled parts. The text reads: '愛車への感謝の気持ちはリサイクル' (Gratitude for my car is recycling), '循環型社会を目指した自動車リサイクルの取組と実績を知る10の質問' (10 questions to know about the efforts and achievements of automobile recycling aimed at a circular society). The JARC logo is at the bottom.

The brochure features a cartoon character holding a recycling bin. The text reads: '地球のために 未来のために! 自動車リサイクル' (For the Earth, for the future! Automobile recycling), '自動車リサイクルシステムって何?' (What is the automobile recycling system?), 'リサイクル料金の使いみちは?' (What are the uses of recycling fees?), '使用済自動車のリサイクルはうまくいっているの?' (Is the recycling of used vehicles going well?). The JARC logo is at the bottom.



全国運輸支局等窓口でのチラシ備付やポスター掲示の様子



3. インターネットメディアでの露出を高める取組

インターネットメディアでの自動車リサイクルに関する情報の露出を高めるために、2018年4月から10月末までにニュースリリース配信を17件行った。その結果、インターネットメディアに983件記事が掲載された(広告換算:約2億5千万円)。また、“自動車リサイクル博士”の“ゆるキャラグランプリ2018”への出場を通じ、自動車リサイクルの認知を高める取組を行っている。

(1) リリース情報と広告換算(参考値)

	配信日	リリース情報	掲載数 (件)	広告換算* (万円)
全 6回	4～ 6月末	第1回「クルマのリサイクル」作品コンクール受賞者の表彰式を開催 他	361	9,482
7	7/20	「自動車リサイクルデータBook 2017」公表のお知らせ	59	1,539
8	7/26	「環境と学びの環境博-信州環境フェア2018-」に出展	56	1,519
9	8/22	「いしかわ環境フェア2018」に初出展	56	1,481
10	8/22	「環境都市まつやま環境フェア」に出展	57	1,488
11	8/30	「第18回あきたエコ&リサイクルフェスティバル」に出展	58	1,499
12	8/30	仙台市で開催の「エコフェスタ2018」に初出展	58	1,499
13	9/13	「環境デーなごや2018 中央行事」に出展	56	1,428
14	10/1	JARC 2018年10月からESG投資を開始	57	1,431
15	10/3	「県民環境フェア2018inなは」に初出展	55	1,425
16	10/19	JARC 東京都発行の「東京グリーンボンド」に投資	56	1,428
17	10/31	「2018松江市環境フェスティバル」に出展	54	1,215
合 計			983	25,434

*メディアに記事掲載された際の露出効果を、同じ枠を広告として購入した場合の広告費に換算したもの

(2) ゆるキャラグランプリに初出場

8/1、公式キャラクターである“自動車リサイクル博士”が、ゆるキャラグランプリ2018に初出場した。

その結果、自動車リサイクルの関係者の応援を受け、“企業・その他”の部門で出場のキャラクター403件中、**156位**
(**2,383票**を獲得)であった。

*主催：ゆるキャラ®グランプリ実行委員会



自動車リサイクル博士

4. 全国環境イベントでの取組

2018年度は、昨年度の8ヶ所から13ヶ所へと各地域の環境イベントの出展回数を増やし、全国をキャラバンしながら自動車リサイクルの取組についての理解活動を行っている。

また、出展に際しては、地域メディアや自治体との情報共有の取組を行っている。

(1) 環境イベントへの出展計画

	開催地	名称	予定月	規模	MAP
①	神奈川県	かながわエコ10フェスタ	5月	14万人	
②	北海道	環境広場さっぽろ	6月	3万人	
③	長野県	信州環境フェア	7月	1万人	
④	愛媛県	まつやま環境フェア	8月	0.5万人	
⑤	石川県	いしかわ環境フェア	8月	3万人	
⑥	秋田県	あきたエコ&リサイクルフェスティバル	9月	3万人	
⑦	宮城県	エコフェスタ仙台	9月	1万人	
⑧	愛知県	環境デーなごや	9月	15万人	
⑨	福岡県	北九州エコライフステージ	10月	15万人	
⑩	沖縄県	県民環境フェア	10月	0.5万人	
⑪	島根県	松江環境フェスティバル	11月	1万人	
⑫	京都府	京都環境フェスティバル	12月	3万人	
⑬	東京都	エコ10	12月	16万人	

*⑨福岡県、⑩沖縄県の環境イベントは、台風の影響により中止。

(2) 取組状況

④

- まつやま環境フェア
- 日程：8月25日(土)
- 会場：愛媛県松山市
- 天候：晴れ
- 来場者：約0.2万人
- アンケート回収数：194件
 - 内自動車1-ガー：137件(71%)
- 自動車リサイクル認知状況：70%
- メディアへの掲出状況
 - 日刊工業新聞(8/24)



来場者との交流



来場者との交流

- いしかわ環境フェア
- 日程：8月25日(土)、26日(日)
- 会場：石川県産業展示館(金沢市)
- 来場者：約2.7万人
- ⑤ ■アンケート回収数：**1,183件**
内自動車ユーザー：1,027件(89%)
- 自動車リサイクル認知状況：**68%**
- メディアへの掲出状況
なし



体験学習
マラカス作り



- あきたエコ&リサイクルフェスティバル
- 日程：9月1日(土)、2日(日)
- 会場：秋田県駅前アグラ広場(秋田市)
- 来場者：約2.2万人
- ⑥ ■アンケート回収数：**1,149件**
内自動車ユーザー：807件(70%)
- 自動車リサイクル認知状況：**70%**
- メディアへの掲出状況
日刊産業新聞(8/31)



- エコフェスタ仙台
- 日程：9月2日(日)
- 会場：勾当台公園(仙台市)
- 来場者：約1万人
- ⑦ ■アンケート回収数：**527件**
内自動車ユーザー：334件(63%)
- 自動車リサイクル認知状況：**70%**
- メディアへの掲出状況
河北新報(9/4)



- 環境デーなごや
- 日程：9月15日(土)
- 会場：久屋大通公園(名古屋市)
- 来場者：約11万人(速報)
- ⑧ ■アンケート回収数：**867件**
内自動車ユーザー：577件(67%)
- 自動車リサイクル認知状況：**74%**
- メディアへの掲出状況
中部経済新聞(9/15,9/17)



- 松江環境フェスティバル
- 日程：11月4日(日)
- 会場：くにびきメッセ大展示場(松江市)
- 来場者：約1万人(速報)
- ⑪ ■アンケート回収数：**525件**
内自動車ユーザー：422件(80%)
- 自動車リサイクル認知状況：**71%**
- メディアへの掲出状況
山陰中央テレビ PRIMEニュース(11/4)



5. 小学生の学校教育と連動した取組

日本自動車工業会を始めとした自動車リサイクルの関係者と共に、小学生に向けた体験学習の場を提供し、小学生やその保護者の認知向上と理解促進に取り組んでいる。そして、この取組で得られたコンテンツを活用して、地域メディアや自治体などを通じて、地域住民への情報拡散に取り組んでいる。

(1) 背景

小学5年の社会科で学ぶ自動車リサイクルは、日本の基幹産業の“自動車”の中で紹介されている。情報の受け手の小学生自らが、循環型社会に向けた自動車リサイクルの取組を正しく理解し、興味を持ってもらい、日本の産業や環境保全などに現状や将来について考えるための基礎情報の提供が必要である。

(2) ねらい

“子ども記者”が取材者となり、小学生の目線で自動車リサイクルの取組をわかりやすく伝えることにより、次の効果を期待する。

- 小学生とその保護者、学校の先生の認知向上と理解の促進。
- 地域住民、地域自治体、地域メディアなどの読者への情報拡散。
- 関係する事業者間でのベストプラクティスの共有。

(3) 実施概要（以下①～③の取組を実施）

①小学生新聞「子ども記者」による現場取材を実施：（5月～9月）

掲載月	取材内容	協力団体
6月	リサイクル部品の利用促進に向けた取組	自動車リサイクル部品協議会
7月	解体事業者の取組	自動車破碎残さリサイクル促進チーム（ART）
8月	破碎事業者の取組	自動車破碎残さリサイクル促進チーム（ART）
8月	販売事業者(引取業者)の取組	日本自動車販売協会連合会
9月	自動車メーカーの取組	日本自動車工業会

＊現場取材により制作したコンテンツの利用方法

毎日小学生新聞に掲載、“Newsが分る”冊子に掲載、環境イベントで来場者に提供、全国教育委員会に提供、学校教科書制作会社へ提供、全国経済産業局・環境事務所へ提供、関係団体を通じて関連事業者へ提供、等々

②全国小学校に壁新聞にした取材記事の内容を配付：（10月頃）

③第2回クルマのリサイクル作品コンクールを実施：（11月以降）

【第4回】自動車販売店の取組（9/14掲載）

クルマのほとんどをリサイクル

自動車リサイクルの仕組みを詳しく解説。部品は再利用され、金属は溶融して新たな部品に生まれ変わる。

毎小こども記者
自動車リサイクルの秘密を探る! ④自動車販売編

自動車リサイクルの入り口・写真的な視点を
あつめて 第4回は、毎日早稲
草園のこども記者と一緒に、自動車販
売店を訪ねます。ここでは人と車に
あふれている自動車販売店に、どう
なっているのか、自動車リサイクルを
あつめて、どんな役割を担っている
のでしょうか。

毎小こども記者の目

- 自動車販売店 (記者: 山本 大)
- 自動車リサイクルセンター (記者: 山本 大)
- 自動車リサイクルセンター (記者: 山本 大)

整備工場で修理や点検

整備工場で修理や点検を受ける車は、整備士のチェックを受け、安全確認が行われます。

リサイクルがしやすいほど低額

リサイクルがしやすいほど、車の買い取り価格が低額になります。

自動車販売店を取材

東京トヨペット 芝浦店
リサイクルは、販売店の仕事の一部。販売店の仕事は、車を売るだけでなく、リサイクルの仕組みを伝えることも重要です。

新車から廃車まで

お客さんとリサイクルをつなぐ

新車から廃車までの流れを詳しく解説。リサイクルの仕組みを伝えることも重要です。

車ごとに違う料金

車ごとに違う料金。リサイクルの仕組みを詳しく解説。

これが証明書

これが証明書。リサイクルの仕組みを詳しく解説。

拡大した記事はこちら <https://www.jarc.or.jp/news/4770/>

毎小こども記者の目

- 自動車販売店 (記者: 山本 大)
- 自動車リサイクルセンター (記者: 山本 大)
- 自動車リサイクルセンター (記者: 山本 大)

環境を考えた車作り

環境を考えた車作り。リサイクルの仕組みを詳しく解説。

【第5回】自動車メーカーの取組（9/30掲載）

きれいにしてから海へ 水処理センター

1日2000トン。水処理センターで、車の部品をきれいにしてから海へ流します。

毎小こども記者
自動車リサイクルの秘密を探る! ⑤自動車生産編

自動車リサイクルの入り口・写真的な視点を
あつめて 第5回は、毎日早稲
草園のこども記者と一緒に、自動車
メーカーを訪ねます。ここでは人と
車にあふれている自動車メーカー
に、どうなっているのか、自動車
リサイクルをあつめて、どんな
役割を担っているのでしょうか。

毎小こども記者の目

- 自動車メーカー (記者: 山本 大)
- 自動車リサイクルセンター (記者: 山本 大)
- 自動車リサイクルセンター (記者: 山本 大)

水処理センター

水処理センターで、車の部品をきれいにしてから海へ流します。

生産工場を取材

日産自動車 工場
生産工場を取材。リサイクルの仕組みを詳しく解説。

環境を考えた車作り

環境を考えた車作り。リサイクルの仕組みを詳しく解説。

拡大した記事はこちら <https://www.jarc.or.jp/news/4836/>

毎小こども記者の目

- 自動車メーカー (記者: 山本 大)
- 自動車リサイクルセンター (記者: 山本 大)
- 自動車リサイクルセンター (記者: 山本 大)

環境を考えた車作り

環境を考えた車作り。リサイクルの仕組みを詳しく解説。

6. クルマのリサイクル作品コンクールを開催

小学生の学校教育と連動した情報提供の一環として、小学生自らが自動車リサイクルの学びを通じて、自動車の産業や環境保全に向けた取組の現状や将来を考え、自動車リサイクルの取組の理解が深められるように、全国の小学生を対象とした第2回クルマのリサイクル作品コンクールを開催した。

作品の応募期間は、2018年11月1日から2019年1月31日である。

<開催概要>

- 主 催：公益財団法人自動車リサイクル促進センター
- 後 援：経済産業省、環境省、全国都道府県教育委員会連合会、
全国市町村教育委員会連合会、一般社団法人日本自動車工業会、
一般社団法人日本自動車販売協会連合会、
一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会、
毎日新聞社/毎日小学生新聞

- 応募資格：小学生（日本在住）
- 部 門：①標語の部、②ポスターの部
- 応募期間：2018年11月1日（木）
～2019年1月31日（木） 必着

- 入賞発表：3月下旬
 - 賞：個人賞、団体賞、参加賞
- (*)作品コンクールの詳細は次のURLを参照

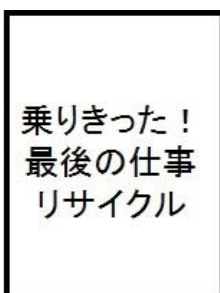
<https://www.jarc.or.jp/contest2018/>



<第1回「クルマのリサイクル」作品コンクール受賞作品例>



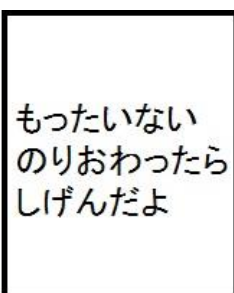
最優秀賞



JARC賞



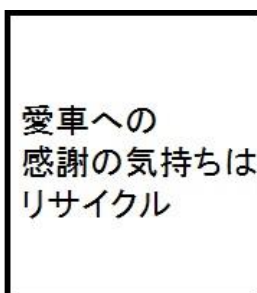
小学生新聞賞



審査員特別賞



審査員特別賞



審査員特別賞

7. ユーザー理解活動事業費の執行状況（第2Q）

2018年度4月から9月末（第1Q～2Q）までのユーザー理解活動に要した費用は、3,956万円（予算執行率：15.1%）であった。
 なお、この理解活動費は、特預金と繰越金から負担される。

＜ユーザー理解活動に要した費用の内訳＞

（単位：万円）

#	取組の方向性	施策例	年度 計画額 ①	第2Q までの 決算額 ②	執行率 ②/①
1	全国万遍なく、環境関連イベントに出展し、自動車リサイクルの取組・成果の認知向上の機会を創出する	●全国環境イベントでの情報提供の取組 ●地域メディアと連携した情報拡散の取組	2,000	951	47.6%
2	若年層に向けた情報発信を強化する	●小学生の学校教育と連動した取組 ●自治体と連携した情報拡散の取組 ●運転免許教習生に対する取組	6,100	1,557	25.5%
3	各種メディアを活用して露出を高める取組を行う	●メディアミックスによる効果的な取組	13,000	0	0.0%
		●ニュースリリースの積極的配信 ●その他のパブリシティ活動	0	0	-
4	身近なところから、ユーザー視点で分かりやすい情報へと改善を行う	●ウェブページを活用した情報発信と改善 ●広報冊子を活用した情報発信と改善 ●広報ツール制作（チラシ・ポスター等）	1,770	255	14.4%
5	自動車リサイクルの現状や実態の変化等を把握する	●ユーザーの認知状況の把握 ●各種ユーザーニーズの把握	330	76	23.0%
6	広報・PRの専門家を助言や支援を受けながら、質の高い情報を、効果的に発信する	●効果的な取組の実務支援 ●リスク低減の観点での支援 ●情報発信の効果検証 他	3,000	1,117	37.2%
合 計			26,200	3,956	15.1%

<https://www.jarc.or.jp/>